

2022年1月

【ママやパパたちへ】1月の育ちのころ
「考える余地を残す五カ条①」

12月の育ちのころで、「クリスマスには『愛』がある」とお話ししました。

それは、「おめでとう」は「お愛でとう」。「愛でる」に、「お」を付けます。つまり、「愛されていること」が、「おめでとう」の内容ってということです。

この「愛されている」ことが、実は幼児期において最も必要なことです。

「ワタシは愛されている」という実感が、子どものころとからだの安定の基盤になります。

そして、この「ワタシは愛されている」が、子どもの興味・関心・意欲を、強め、広げるのです。

この順番が逆になっていることがあるかもしれません。「上手にできたら、愛してあげる」「がんばったら、ね」と。

でも、間違っただけではありません。「愛すること」は、決してご褒美ではないのです。「愛すること」を、ご褒美にしてはいないかな？

『人は、もともと、上を目指したいという本能を持っている』といいます。『向上心』です。

この『向上心』が、人類が文明を発達させた原動力と言われます。

子どもだって同じです。「面白そう！」「やってみよう！」は、もともと子どもは持って誕生しています。

問題は、その『子どもなりの、上を目指したいという本能』を、大人が阻害してはいないかな？なのです。

条件付きで愛することやご褒美としての愛することは、その「本能の阻害」となるのです。

だからね、いっぱい愛してください。何よりも、まず、愛してくださいね。

愛されているからこそ、子どもは頑張れるのです。

そして、「愛された」は貯金できるのです。子どものときの「愛された」が、その後、大人になっても、活きるのです。

『考える余地を残す五カ条』があります。

その第1条は、「子どもの安全基地になること。心理的絆をつくりあげること。」。

ママやパパの存在は、子どもにとっての「安全基地」です。何かあったときには、安全基地に戻ってきて、そこで休み、こころを落ち着かせます。そして、落ち着いたら、再びそこから出ていくのです。

まるで、飛行機が空を飛んでから飛行場に降りるように。船が海を渡ったのちに、港に戻るように。

私たちは、自分が戻れる場所があるから、頑張れるのではないかな。

そして、一番悲しいことは、戻れる場所を持たないことなのではないかな。

ママやパパは飛行場、港。いつでも子どもが戻って休めるところでいてくださいね。(園長：飯塚拓也)